

♪ 研修会参加記 ♪



日赤図書室協議会に参加をして

小林 紀子

第10回日赤図書室協議会・研修会へ参加してきました。私は2回目の参加となりますが、今年の会場は、毎年行っている本社でなく、医療センターの会議室をお借りしての開催でした。研修会場が分からなく困っていた私に親切に案内してくれた職員の方や明るい院内に、今回のように病院で行うのもいいのではないかと思います。

私が図書室の業務を任されて1年がたとうとしています。前回参加をした時は皆さんが何を話しているのかも分からず、文献検索？患者さんへの情報提供？などは、医事業務しか分からない私には未知の世界でした。図書業務は本を並べて貸し出し等を行えばいいと思っていましたので、業務内容の広さや皆さんの活動のすばらしさに、私も皆さんの仲間になりたい、図書業務のことを知りたい一心で現在にいたっています。

今回の研修会の1日目「基礎講座」では、雑誌の充実を図るために当院でも話題にでている電子ジャーナルのパッケージが紹介され、とても興味深く伺うことができました。図書室に行かなくても好きなときにアクセスして利用できること、又、雑誌の受け入れ・製本の手間が省けるととても魅力的なものでした。

成田赤十字病院の松原さんの報告「司書アシスト」も、当院でも利用していることもあって、うなずきながらお話を聞き入りました。

2日目の「公開講座」では、これからの病院図書室のあるべき姿を教えてくださいました。牛澤先生の「ホームページの活用」では図書館側からでなく利用者側がわかるように作成するよう心がけること、顔が見える関係作りによることなどホームページを作るノウハウを丁寧に説明していただき、早速挑戦してみたいと思いました。

医療センターの増田院長先生のご講義では、これからの日赤図書室は「365日・24時間開放 病室でのPCの使用 一般への公開」と、まさにこれから目指さなくてはいけない方向性について教えてくださいました。患者様用図書室がなぜ必要なのか、先生方の後方支援として図書室による情報提供への期待など、先生の熱意がひしひしと伝わってきました。

今回の研修会でまた、図書業務の新たな一面が分かり大変勉強になりました。これからは、インフォームドコンセントを支援し、利用者からのニーズに対応できる図書室となるよう、日々努力と勉強を積み重ねていきたいと思えます。これからも研修会で知り得たこと、人との関わりを大切に全力でがんばりたいと思えます。

KOBAYASHI Noriko

飯山赤十字病院 図書室